

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①第1回あつまスケートまつり開催
- ②文化・スポーツ教室の報告&お知らせ
- ③スケート教室/長期休業中の学習会—アツマナビ開催—/第29回室内ソフトボール大会
- ④厚真に残るアイヌの伝承アニメ試写会/定例教育委員会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動報告

第1回あつまスケートまつり開催



100m競争



人間カーリング



休憩スペース



キッチンカー

1月24日(土) 町民スケートリンクで、第1回あつまスケートまつりが開催され、約150人が来場されました。

この行事は、昨年まで小中学生のスケート記録会として開催されていましたが、今回から、幼児から大人までの多世代を対象として氷上および雪上でゲーム感覚のさまざまな競技が行われました。今回行われた競技・イベントは下記のとおりです。

<氷上競技>

- ・イス押し50m競争
- ・100m競争
- ・人間カーリング
- ・イス押しリレー

<雪上イベント>

- ・大きなすべり台
- ・ストラックアウト
- ・お菓子まき
- ・キッチンカー出店



すべり台



お菓子まき

総合型地域文化・スポーツクラブ設立準備委員会

文化・スポーツ教室の報告 & お知らせ

総合型地域文化・スポーツクラブ設立準備委員会では、多世代の町民が集まり、さまざまな種目に触れることができる体験教室を定期的を実施しています。今回は、1月から3月の教室の開催報告と告知をまとめてお送りします。

報告①冬のバレーボール DAY

1月13日(火)に中央小学校でゲーム形式でバレーボールを楽しむバレーボールDAYを開催しました。当日は子どもから大人まで30人以上の方が参加し、体育館の使用時間を目いっぱい使って年代別にゲームを楽しみました。町外の学校に進学しバレーボールをプレーしている高校生も参加しており、参加した大人たちが久しぶりの再会を喜ぶとともに、一緒になってゲームをする心温まる光景も見られました。



レベルの高いプレーもあり盛り上がりました

報告②プロ選手を招いてのバレーボール教室



実技も交えて丁寧に指導していただきました

2月2日(月)は地域活性化起業人の大村奈央さんのご協力のもと、プロビーチバレーボール選手として活躍している藤井桜子さん(株式会社立飛ホールディングス所属)を特別ゲストにお招きして、バレーボール教室を開催しました。1月に開催したバレーボールDAYではゲーム形式でバレーボールを行いましたが、この教室では高いレベルで活躍するプロ選手からバレーボールの技術や楽しさを学ぶことを主な目的として実施しました。バレーボール経験者も未経験者も、ビーチバレーならではのスタイルも取り入れた藤井さんの指導のもと、笑顔があふれるなか真剣な表情も垣間見える、実りある教室となりました。



藤井さん流のウォーミングアップ



ゲームを通して交流を深めました



多世代で楽しめる教室を目指します

お知らせ

元日本代表が来る!ラグビー体験教室開催

元ラグビーワールドカップ日本代表の富田真紀子さんを講師にお迎えし、ラグビー教室を開催します。ラグビー経験者の方から未経験者の方まで、たくさんの方々の参加をお待ちしています!

- ◆日 時 3月22日(日)10:00~11:30
- ◆会 場 厚真中央小学校 体育館
- ◆講 師 富田 真紀子さん
- ◆参加費 無料
- ◆主 催 総合型地域文化・スポーツクラブ設立準備委員会
- ◆協 力 大村奈央さん(厚真町地域活性化起業人)

※参加申し込みは、右のQRコードからフォームに入力してください。



申込はこちらから

スケート教室を今年も開催しました！



4日間で延べ92人が参加し、基礎基本を楽しく学びました

教育委員会では、町民スケートリンクで町内の小学1年生～4年生を対象としたスケート教室を毎年実施しています。冬休みも後半となった1月8日（木）、9日（金）は上厚真小学校の児童を対象に、13日（火）、14日（水）は中央小学校の児童を対象に教室を実施しました。

当日は、履いているスケート靴ごとにグループ分けをし、講師の方々に習熟度に合った丁寧な指導をしていただきました。最初はリンクの上に立つことで精いっぱいの様子だった児童も、教室の終盤では、補助用の椅子をつかみながら前に進むことができるようになり、寒さに負けず取り組む姿が印象的でした。教室を機により多くの方にリンクを利用していただければと思います。

長期休業中の学習会 ―アツマナビ開催―

教育委員会では、1月8日（木）、9日（金）は中央地区、13日（火）、14日（水）は厚南地区で、両地区2日間日程の学習会アツマナビを開催しました。この取組は、令和2年度の冬から教育委員会で取り組んでおり、午前と午後に対象学年を分けて、教え合う、学び合うことを目的として夏と冬の長期休業中に毎年開催しています。

実施に伴い、午前中は毎回特別授業を実施していますが、今回は、キーホルダーづくりと「味覚」をテーマにした授業を行いました。

アツマナビの詳細については、右記QRコードの「厚真町教育委員会公式note であいとまなびと」をご参照ください。



詳細はこちらから

教育魅力化支援員が行う特別授業の様子

第29回室内ソフトボール大会



ホームランも出るなど白熱した試合の様子

2月12日（木）、13日（金）の2日間、あつまスタードームで第29回室内ソフトボール大会が開催され、102人が参加しました。参加チームは、①厚真ファイターズ、②苫東石油備蓄、③ゆかいな仲間達、④あつけん、⑤へちま学級、⑥厚真クラブの6チームでした。

試合は、18時30分から第1試合を開始し、1試合55分の制限時間で戦いました。トーナメント形式で行われ、厚真ファイターズと苫東石油備蓄の決勝戦となりました。なかなか点数が入らない展開でしたが、1対0で苫東石油備蓄が優勝を手に入れました。

ホームランは、全5試合中2本出るなど、白熱した2日間となりました。

厚真に残るアイヌの伝承アニメ試写会

高丘・富里地区の伝承～カモメのおつげ～

教育委員会では令和7年度にアイヌ政策推進交付金を活用して厚真に残るアイヌ伝承のアニメ制作を行っています。アイヌ民族の伝承については厚真村史などにいくつか紹介されていますが、その中でも厚真に来た幕末の探検家「松浦武四郎」が書き残した伝承を素材にしました。

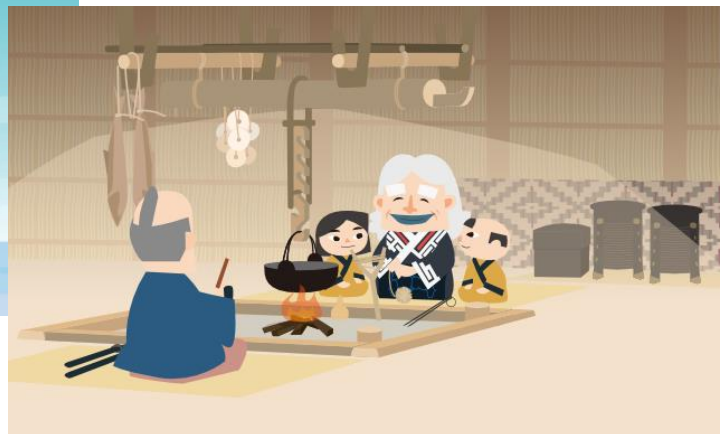
アニメのタイトルは「カモメのイピリマ」。高丘・富里地区に残る伝承で、高丘地区の旧地名もアイヌ語のカピウ（アイヌ語でカモメ）から由来していることが分かります。

厚真町で初めてとなるアイヌ民族を題材としたアニメで、制作にあたっては軽舞遺跡調査整理事務所の主催事業に合わせて町民や周辺住民の方々も含め、絵コンテ公開や音源録音なども行いました。放映時間は約4分ですが、制作期間はなんと8カ月。制作したアニメは令和8年度以降、軽舞遺跡調査整理事務所のほか町内施設のデジタルサイネージで随時放映予定です。今回は記念すべき第1作品目となります。ぜひ試写会にお越しください。



絵コンテタイトル

〔絵コンテより一部抜粋〕



話を聞き取る松浦武四郎

日にち：3月22日（日）

時間：午前10時～11時

場所：総合ケアセンターゆくり2階 介護学習室

申込：不要（当日直接会場へお越しください）

問合せ：軽舞遺跡調査整理事務所 ☎28-2733

アニメのセリフは専門家監修のアイヌ語で行い、日本語字幕で放映します。

1月定例教育委員会

1月29日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします

●報告事項

放課後子ども教室特別時教室「冬の森探険&餅つき大会」／町民スケートリンク開設／長期休業中小中学校学習会／冬休みスケート教室／令和7年度第4回厚真町二十歳のつどい／あつまでプレーパーク／第2回実用数学技能検定／まが玉づくり／民間企業の地域貢献活動について／英語検定事務局移行に伴う英語検定実施の流れについて

●議案

厚真町教育委員会事務局組織規則の一部改正について／教育委員会事務局職員の人事について

●協議

令和8年度当初予算の概要について／総合教育会議について

●その他

各学校の卒業式、入学式への教育委員の出席について／令和8年度厚真町小中一貫教育研究大会について

●問合せ

教育委員会学校教育グループ ☎27-2494

図書室だより



青少年センターの思い出

図書室司書 田頭 優子

青少年センターを初めて見たのは、仕事の面接の時厚真町に訪れた時でした。空知地方に住んでいた私にとって胆振地方は知り合いもなく、行ったこともない縁のない土地でしたので、厚真町に応募はしたものの正確な場所も分からず「苦小牧の近く」という印象しかありませんでした。

採用され働き始めると、慣れない仕事と知らない土地での一人暮らしで不安が募ってきました。そんな時、月1回、プラネタリウム投影と星空観察会があると聞き、気分転換もかねて参加しました。当時は手動の投影機で、教育委員会に勤務していた橋本さんが音楽とナレーションをつけながら動かしていました。投影後は屋上の天体望遠鏡で月や星の観望会をしていました。参加者はほぼ固定メンバーでしたが、厚真町での不安な気持ちを消してくれるようなほのぼのとした天体観望会でした。プラネタリウムや天体望遠鏡を身近に感じることができ、厚真町で一番好きな場所でした。



本屋大賞 2026 ノミネート作品のご紹介

今年も書店員が選んだ本屋大賞ノミネート作品が選出されました。ノミネート作品は2024年12月から2025年11月末までに刊行された日本の小説です。

今年は図書室の移転時期と重なるため、本屋大賞発表前の特設展示はできませんが、書店が一番力を入れているイベントですので、この機会に書店で手に取ってみてはいかがでしょうか。 ※書名五十音順



◆暁星 湊 かなえ／著
◇ありか 瀬尾まいこ／著
◆イン・ザ・メガ・チャーチ 朝井リョウ／著
◇失われた貌 櫻田 智也／著
◆エピクロスの処方箋 夏川 草介／著

◆殺し屋の営業術 野宮 有／著
◇さよならジャバウオック 伊坂幸太郎／著
◆熟柿 佐藤 正午／著
◇探偵小石は恋しない 森 バジル／著
◆PRIZE プライズ 村山 由佳／著

青少年センター図書室 電話不通のお知らせ

青少年センターの電話回線が2月末で終了します。そのため、3月中の図書室へのお問い合わせ等については、教育委員会（☎27-2495）へお願いします。

後ほどこちらから折り返しでの電話対応となりますのでご了承ください。

2月28日から3月31日まで休館します。移転後の再開は4月1日を予定しています。なお、2月28日と3月1日には、物品譲渡会やバイバイイベントを開催しますので、ぜひご参加ください。 ※厚南会館は通常どおり開館しています

■厚南会館図書室
9時00分～17時00分（月～日）
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

マナビイカレンダーには3月26日（木）に予定が入っていますが、3月の「おはなしのびっ子」はおやすみです。

☆ 放課後子ども教室活動報告 ☆

立春を過ぎても、春の足音はまだ遠く、吹き抜ける風が子どもたちのほっぺたを赤く染めていきます。それでも、子どもたちと一緒に歩く帰り道は、少しずつ日が長くなり、家路につく背中を見届けることができるようになってきました。振り返って手を振る子どもたちの表情が、ふんわり残る夕日の明るさに映ります。

1月半ばから2月前半にかけて、この時期らしい寒さに見舞われましたが、子どもは風の子、元気の子。スキーウェアに身を包み、帽子と手袋を装着して、いざ雪遊びへ出発です。今年はソリで滑るのにちょうど良いフワフワな雪質の雪が多かったので、ソリを片手に、子どもたちと一緒に学校林や河川敷、公園など斜面を求めてお出かけしながら雪遊びを楽しみました。スピードをあげて滑り降りていくソリの中から、子どもたちの楽しそうな声が響きます。舞い上がる雪で顔や帽子は真っ白。「冷たい！」と手袋をした手で雪を払い落としては、再びスタート地点を目指して斜面を駆け上っていく姿にたくましさを感じました。同じところを何度も滑ると雪のボリュームがだんだん少なくなっていくので、その都度、新しいソリコースを開拓し、時間いっぱいまでソリ遊びを楽しみました。帰る頃には「たくさん遊びすぎて、もう歩けない」「いっぱい斜面を登ったからおなか空いた」と子どもたちのパワーは残りわずか。クタクタになるまで思い切り遊べるのは、子ども時代の特権だと思います。この日はきっとたくさんご飯を食べて、ぐっすり眠ったことでしょう。

冬になると厄介なのが静電気です。乾燥する季節、前触れもなく襲われるパチツというあの感覚は、いくつになっても慣れません。そんな厄介者の静電気ですが、子どもたちの手にかかれば、不思議でちょっとしたドキドキ感を味わえる実験の材料になります。静電気をを用いた実験は、さまざまな媒体で紹介されています。子ども教室でもプラスチックのコップにアルミホイルを巻いて、その中に電気を溜める装置をつくり、静電気に自分たちのタイミングで触れてみる実験を行いました。過去に経験したことがある子どもたちは、自分自身にも静電気がたまるようにニットのセーターやフリース素材の上着を着込んで、やる気満々でやってきました。参加したい子同士、手をつなぎ、装置につけたスイッチに触れると、手から手へ電流が伝わり、みんなで静電気の力を体感することができます。3、2、1…のカウントダウンとともに子どもたちのドキドキ感はどんどん高まります。勇敢な希望者がスイッチに触れた瞬間、「キャーッ！」という叫び声のあと、笑い声に包まれる体育館。「ちょっと怖いけど、楽しい!」「もう一回やりたい!」と何度もチャレンジする子どもたちでした。なぜ、この装置の中に電気がたまるのか。なぜ、手をつないだ人みんなに電流が伝わるのか。なんでだろうね?と子どもたちに問いかけると、ノートパソコンを開いてその謎について調べ始めました。こうした遊びで見つけた不思議から、子どもたちの興味の扉が開いていけば良いな、と思います。

